

# 十日町市博物館 年報

— 第 5 号 —



平成 30 年度

## 刊行にあたって

当館は昭和54年(1979)の開館以来、「妻有地方の自然と文化」をテーマに掲げ、「雪」と「織物」と「信濃川」を柱に、博物館友の会と車の両輪のごとく協力して活動を続けてきました。その中で、重要文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料2,098点」(昭和61年指定)、同「十日町の積雪期用具3,868点」(平成3年指定)、すばらしい造形美を誇る火焰型土器を含む国宝「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器57点(附871点)」(平成11年指定)を生み出しています。また、展示もこれまでに増築およびリニューアルを行い、三つの常設展示室をもつにいたしました。

現在、当館では2020年6月のオープンを目指して、新博物館建設事業を進めており、平成31年3月に建物本体が竣工し、4月より展示工事に着手します。本書をご高覧いただき、ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

十日町市博物館

## 目 次

I 館の運営	1
1. 来館者の状況	1
2. 博物館協議会	2
3. 予算	3
II 事業の概要	4
1. 教育普及・展示事業	4
2. 新博物館建設事業	7
3. 縄文文化発信事業／縄文・里山文化による誘客促進事業	9
4. 資料の収集・貸出	11
5. その他の事業	12
III 調査・報告	13
・資料報告①「中新田A遺跡の獣面突起」 菅沼 亘(学芸員)	13
・資料報告②「宮本茂十郎手織の透綾(絹縮)裂地」 阿部 敬(学芸員)	14
IV 博物館友の会	15
附編 これまでに開催された子ども博物館	16

## 例 言

1. 本書は、十日町市博物館の平成30年度・事業報告である。
2. 本書に掲載されている写真の無断掲載(転載)を禁じる。すべての著作権は十日町市博物館と撮影者・提供者に帰属する。
3. 本書の編集は菅沼 亘(学芸員)が行った。原稿の執筆は職員で分担し、文末に氏名を明示した。
4. 本年度の事業を行うにあたり、関係諸機関および多くの皆様から多大なるご協力をいただいた。個々に名前を記すことはできないが、お礼申し上げます。

(表紙写真：現博物館の竣工・昭和53年)

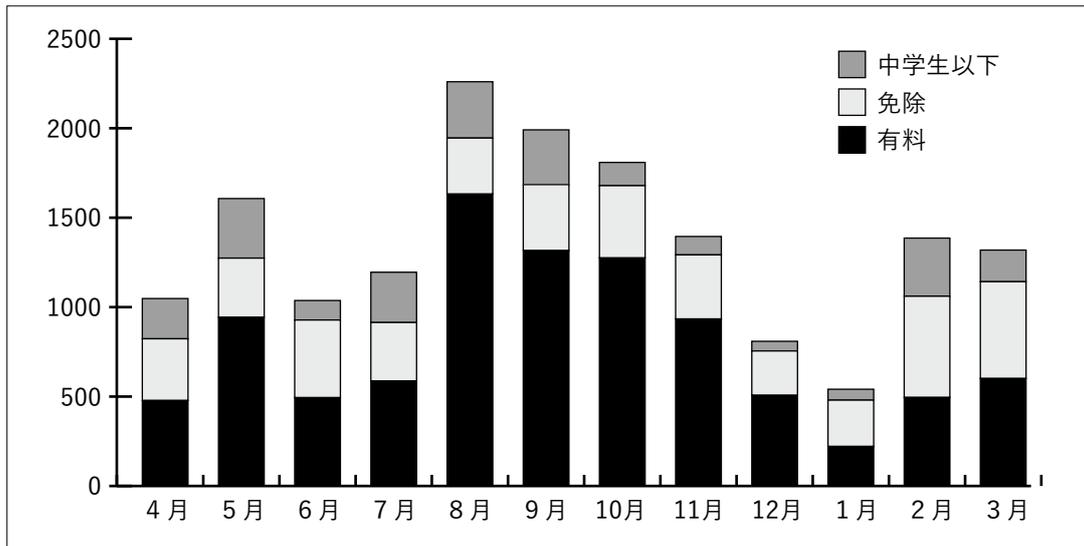
# I 館の運営

## 1. 来館者の状況

### ①月別の推移

来館者数の月別推移は、以下のとおりである。中学生以下は無料、高校生以上が有料となっている。

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
一 有 料	478	943	494	587	1,632	1,316	1,275	934	507	221	495	601	9,483
般 免 除	345	331	434	327	313	369	404	358	248	259	566	541	4,495
中学生以下	225	333	109	281	315	306	130	103	54	61	325	177	2,419
合 計	1,048	1,607	1,037	1,195	2,260	1,991	1,809	1,395	809	541	1,386	1,319	16,397



月別来館者数一覧

### ②団体と視察の受け入れ状況

入館料減免申請書や博物館視察・見学・研修依頼書、電話により受け入れた団体について、小学校20校、中学校1校、その他の60団体に分けて以下に示す。(引間 佳子)

	小 学 校 名
1	南魚沼市立五日町小 (6年)
2	松之山小支援学級
3	十日町市立吉田小 (3・6年)
4	南魚沼市立浦佐小 (6年)
5	南魚沼市立中之島小 (6年)
6	魚沼市立堀之内小 (6年)
7	十日町市立西小 (1・3・4・6年生)
8	十日町市立下条小 (3・6年)
9	南魚沼市立第二上田小 (6年)
10	十日町市立千手小 (6年)

	小 学 校 名
11	十日町市立川治小 (3・6年)
12	十日町市立松代小 (3・6年)
13	埼玉県久喜市東鷲宮小 (6年)
14	長岡市立小国小 (4年)
15	十日町市立田沢小 (3年)
16	十日町市立十日町小 (3・6年)
17	十日町市立橋小 (3・4年)
18	十日町市立中条小 (3年)
19	十日町市立東小 (3年)
20	十日町市立上野小 (3年)

	中 学 校 名
1	十日町市立中条中 (1年)

小・中学校一覧

団 体 名		団 体 名		団 体 名	
1	善應寺護持夫人会（長野）	21	小樽ライオンズクラブ	41	田沢コミュニティ振興会（山形）
2	埼玉県本庄市	22	古殿町公民館歴史教室（福島）	42	伊乎乃の里・縄文サポートクラブ
3	ディレクトフォース（東京）	23	神戸大学美術史研究室	43	イギリスと十日町の高校生
4	里山協働機構（海外）	24	NSW州立美術館（オーストラリア）	44	須坂市議会（長野）
5	三ツ山昔語の会（市内）	25	千代田町教育委員会（群馬）	45	新潟美人きものShu*Kura
6	東京電力ホールディングス	26	ブラジル大使館	46	国立白門会（東京）
7	西蒲区川西地区コミュニティ	27	JETRO	47	苗場酒造蔵まつりツアー
8	立正佼成会	28	クロアチアオリンピック委員会	48	なぎさ高校（広島）
9	ネクスコ東日本（東京）	29	大正大学（東京）	49	ベルナティオ半日バスツアー
10	コモ市民団体（イタリア）	30	新潟県文化財保護連盟	50	豪雪地に見る日本の原風景
11	大岡区区長会（埼玉）	31	加茂市国際交流協会	51	東海村教育委員会（茨城）
12	マーケティングジャパン（東京）	32	かぼちゃの旅の会（茨城）	52	コープみらい地域クラブひだまり(茨城)
13	群馬大学教育学部	33	新潟縄文の旅（大阪）	53	西東京市郷土文化会
14	株式会社上越観光開発（新潟）	34	はじめてのおつかい電車	54	やまて・中条交流（岡山）
15	新潟県都市教育庁協議会	35	野田校友会（千葉）	55	青戸共和会
16	ベルナティオ（東京）	36	(株)グローバルユースビューロー	56	指宿市ご一行
17	校長会研修会	37	ワークセンターとちのきの家	57	昭和観光バスツアー
18	三郷地区町内会長協議会	38	愛宕商事旅行事業部	58	UX新潟テレビ21視察研修
19	観光コンシェルジュ	39	県の女性防火クラブ	59	天理高校スキー部（奈良）
20	日経カルチャー（東京）	40	立山博物館友の会（富山）	60	青山きもの学院（東京）

その他の団体一覧

## 2. 博物館協議会

協議会は年に2回開催され、各回の詳細は以下のとおりである。委員は10名で、今年度は任期2年目にあたり2名の委員が変更となった。

第1回：平成30年6月27日(水) 13:30～15:00 委員9名出席

- ・平成30年度博物館事業の実施状況について
- ・新博物館建設状況について
- ・十日町市教育委員会施設の敷地内禁煙実施について

第2回：平成31年2月22日(金) 13:30～15:00 委員7名出席

- ・平成30年度博物館事業の実施状況について
- ・新博物館建設の進捗とスケジュールについて

(大滝 孝子)

氏 名	職業・所属団体（役職など）	備 考
宇都宮 正 人	十日町市博物館友の会 会長	委員長、社会教育
市 村 正 史	十日町市文化協会連合会 副会長	副委員長、社会教育
小 林 圭 介	十日町市立西小学校 校長	学校教育
池 田 正 義	十日町市教育センター 嘱託指導主事	学校教育
長谷川 吉 徳	十日町青年会議所 理事長	社会教育
田 村 真奈子	十日町市立十日町小学校 PTA副会長	家庭教育
柄 澤 笑 美	十日町市立中条小学校 PTA幹事	家庭教育
蕪 木 健 一	保険業	公募
門 脇 洋 子	主婦	公募
阿 部 美記子	伊乎乃の里・縄文サポートクラブ	公募

(順不同・敬称略)

博物館協議会委員一覧（任期：平成30年5月1日～平成31年3月31日）

### 3. 予 算

平成30年度の予算は以下のとおりである。

(大滝 孝子)

歳入予算

(単位：千円)

款 項 目	節	説 明	当初予算額	補正額	補正後予算額
13款 使用料及び手数料	1項 使用料	7目 教育使用料			
5. 博物館入館料	5. 博物館入館料		2,445	0	2,445
13款 使用料及び手数料	1項 使用料	7目 教育使用料			
5. 博物館入館料	10. 施設使用者使用料		33	0	33
20款 諸収入	5項 雑入	2目 雑入			
7. 教育雑入	1. 私用電話料		1	0	1
20款 諸収入	5項 雑入	2目 雑入			
7. 教育雑入	2. 私用コピー使用料		1	0	1
20款 諸収入	5項 雑入	2目 雑入			
7. 教育雑入	3. 施設使用者電気料		33	0	33
20款 諸収入	5項 雑入	2目 雑入			
7. 教育雑入	70. 古文書講座資料代		40	0	40
20款 諸収入	5項 雑入	2目 雑入			
7. 教育雑入	98. その他雑入		1	0	1
21款 市債	1項 市債	8目 合併特例事業債			
7. 教育債	62. 新博物館建設事業		1,157	64,600	1,222,300
		計	3,711	64,600	1,224,854

歳出予算

(単位：千円、千円未満切り上げ)

節	説 明	当初予算額	補正額	補正後予算額
1. 報酬	博物館協議会委員	110	0	110
2. 給料	一般職給料	3,417	0	3,417
7. 賃金	臨時職員賃金、調査整理補助員賃金	3,100	0	3,100
8. 報償費	講師謝礼・指導者謝礼	306	0	306
9. 旅費	費用弁償・普通旅費	4,461	0	4,461
11. 需要費	消耗品費・燃料費・食糧費・印刷製本費・光熱水費・修繕料	9,306	0	9,306
12. 役務費	通信運搬費・手数料・保険料・広告料	2,585	0	2,585
13. 委託料	新博物館展示工事委託・国宝高精細レプリカ製作業務委託・館維持管理ほか	82,447	0	82,447
14. 使用料ほか	テレビ受信料・コピー機リース・収蔵品管理システム利用・自動車レンタル	790	0	790
15. 工事請負費	施設整備・改修工事ほか	1,140,728	0	1,140,728
17. 公有財産購入費	用地購入費	0	13,858	13,858
19. 負担金ほか	日本博物館協会負担金ほか	871	0	871
22. 補償補填料	家屋移転補償料	0	54,077	54,077
	計	1,248,121	67,935	1,316,056

事業別歳出予算内訳

(単位：千円、千円未満切り上げ)

事 業 名	当初予算額	補正額	補正後予算額
一般経費	1,552	0	1,552
国宝発信事業	408	0	408
博物館施設維持管理（除排雪経費含む）	11,697	0	11,697
新博物館建設事業（合併特例債）	1,218,700	67,935	1,286,635
新博物館建設関連事業	1,822	0	1,822
教育普及・展示事業	2,445	0	2,445
資料収集・調査研究・資料保存対策事業	660	0	660
縄文文化発信事業	4,837	0	4,837
縄文・里山文化による誘客促進事業（地方創生推進・縄文発信）	6,000	0	6,000
計	1,248,121	67,935	1,316,056

## II 事業の概要

### 1. 教育普及・展示事業

#### ①教育普及事業

##### 博物館講座

本講座は市民を対象としたもので毎年6月に行われ、平成27年度は「火焰型土器」、平成28年度は「野首遺跡土器の魅力」、平成29年度は「雪」、本年度は「信濃川」がテーマである。各回の演題と講師は以下のとおりであり、全3回で計100人の受講者があった（受講料無料）。

第1回：6月9日(土) 「信濃川と旧石器・縄文人の関わりについて」

佐藤 信之 氏（津南町教育委員会）

第2回：6月16日(土) 「信濃川の河岸段丘ー変動する大地の証拠ー」

竹之内 耕 氏（フォッサマグナミュージアム）

第3回：6月23日(土) 「信濃川の木造船について」

森 行人 氏（新潟市歴史博物館）



講座の様子

##### 古文書入門講座

本講座は古文書解読の初心者を対象としたもので、市内の史料をテキストにして古文書に親しむと共に、郷土の歴史を学ぶことを目的としている。昨年度に続き、講師は林 悦郎氏（博物館友の会・古文書研究グループ）にお願いした。今年度は「商売往来」、「上組村定」、「御仕置五人組帳前書」などをテキストとしている。講座は6～3月の土曜日（隔週・午前）に行われ、回数は全17回である。今年度の受講生は計13人、内3人が新規の申し込み、その他は昨年度からの継続であった。また、受講生よりテキスト代（2,500円）を徴収している。

##### 子ども博物館

本事業は、市内の小学4～6年生を対象とした体験教室である。今年度は以下のとおり、縄文体験を全3回実施した。各回とも定員10名（事前申込）、参加費（材料費）を徴収し、保護者（参加費不要）も参加可能としている。国宝・タペストリーづくりでは、地元の織物業者に依頼して手描き友禅体験を行った。アンギン編みでは、越後アンギン伝承会の方々より指導していただき、コースターを作っている。土器片消しゴムづくりでは、型を使って土器の文様が付いたオリジナルの消しゴムを作った。また、土器片の接合体験も行っている。

・8月4日(土) 国宝・火焰型土器タペストリーづくり（参加者：5人）

・10月13日(土) アンギン編み体験（参加者：5人）

・12月8日(土) 縄文土器片消しゴムづくり（参加者：11人）



タペストリーづくり



アンギン編み体験



土器片消しゴムづくり

## ②展示事業

### 夏季企画展「縄文土器繚乱」

本展は、博物館友の会と信濃川火焰街道連携協議会との共催で開催された。会期は7月28日(土)～8月26日(日)の35日間、観覧者数は計2,258人である。また、「大地の芸術祭」2018の期間中であつたことから、芸術祭の協賛事業とした。

現在、十日町市において登録されている遺跡は567遺跡である。この内、約6割の遺跡で縄文時代の遺物が出土している。縄文時代は1万年以上に渡り続き、中でも、中期の火焰型土器は日本における原始美術の代表、現代芸術の原点と考えられている。また、これら縄文時代遺跡の多くが、信濃川の両岸に広がる河岸段丘上にある。本展では縄文時代草創期から後・晩期まで、館が所蔵する縄文土器の優品150点を一堂に展示して、大地に花開いた縄文土器の造形美を紹介した。展示構成は、①「縄文時代とは」、



企画展会場

②「十日町市の縄文土器」である。①では、縄文人の生活や土器の変遷などについてパネルで解説している。②では、器形や文様の移り変わりがわかるように、土器を時期別に草創期から順に並べた。また、土器展開写真など写真家・小川忠博氏撮影の写真パネルを展示している。なお、「手で触れることができる国宝」として平成29年度に製作した、国宝・笹山遺跡火焰型土器(指定番号1)の高精細レプリカを、会期中に1階ロビーで展示した。



企画展のポスター

### 秋季特別展「機織りのムラ 馬場上遺跡」

本展は、博物館友の会と信濃川火焰街道連携協議会との共催で開催された。会期は9月29日(土)～11月4日(日)の37日間、観覧者数は計2,342人である。

博物館の周辺に広がる馬場上遺跡は、1974～1984年(昭和49～59)に発掘調査(第1～6次)が行われた、古墳時代中・後期と奈良・平安時代の集落跡である。また、本遺跡出土資料の収蔵展示施設建設計画が契機となって、1979年(昭和54)に当館が開館した。遺跡からは、紡錘車や織物圧痕が付いた土器が出土しており、この地域では古代から機織りが行われ、近世の越後縮、近代の明石ちぢみ、そして、今日の十日町織物へと機織りの伝統が受け継がれている。本展では、紡織用具を中心に新潟県内および周辺地域から出土品を集め、馬場上ムラに暮らした人々の衣食住について紹介した。

展示構成は、①「馬場上遺跡と市内の古代遺跡」、②「馬場上ムラに暮らした人々の衣」、③「馬場上ムラに暮らした人々の食と住」である。①では、馬場上遺跡と市内の古代遺跡から出土した遺物を展示した。②は遺跡出土の紡織具と合わせて、館所蔵の重文・越後縮の紡織用具を展示し、麻織物の製作工程を紹介している。③では、県内および群馬・長野県内出土の農耕具、漁労具などを展示した。また、10月20日(土)午後には東村純子氏(福井大学国際地域学部講師)を招いて、記念講演会「古代越後の苧麻布と考古資料」を開催し、50人の聴講者が参集した。なお、講演要旨を収録した図録をミュージアムショップで有料頒布している。



特別展会場



特別展のポスター

## ロビー特設展示

本展示はロビー壁面ケースの有効活用とリピータの増加を図り、館蔵資料などを定期的に入れ替えで展示するものである。今年度は以下のとおり、4回実施した。

- ・ 4～5月 市指定文化財「雲谷等顔筆 群馬図屏風」(まつのやま学園保管)
- ・ 6～9月 市指定文化財「田沢遺跡出土品」
- ・ 10～12月 市指定文化財「野首遺跡出土品」
- ・ 1～3月 博物館に寄贈された昔の道具

## 移動展

「十日町きものまつり」に合わせて、5月3日(木)に十日町市市民活動センター「十じろう」ギャラリーにおいて、「十日町のきもの歴史展」を開催した。館所蔵の織物資料と庭野武助家資料を展示し、約450人が来場した。庭野武助家資料は、嘉永2年(1849)から昭和24年(1949)まで営まれていた織物買継問屋に関わる資料である。その後、博物館の特別展示室に会場を移し、5月8日(火)～27日(日)まで春季企画展として継続展示している。(菅沼 亘)



春季企画展会場

## ③博学連携

現代の私たちは歴史的に作られてきた文化と自然との間でどのようにふるまい、生きていくべきなのだろうか。小学校6年生児童の総合学習で、その根源を縄文文化から学びとってもらおう活動を行っている。

主催：火焰街道博学連携推進研究会、共催：新潟県立歴史博物館・信濃川火焰街道連携協議会  
参加校：長岡市立関原小学校、小千谷市立吉谷小学校、十日町市立中条・鏡島・下条小学校、南魚沼市立五日町小学校の6年生(計187名)

活動：学習交流会(7/3、会場：十日町市博物館・同総合体育館)、土器作り(9/11・10/9、会場：鏡島小学校・笹山遺跡広場・笹山縄文館)、縄文子どもフォーラム2018(11/28、会場：新潟県立歴史博物館)、巡回展「子ども縄文研究展2018」(1/4～2/17、会場：十日町市博物館)

## ④まちの文化歴史コーナー

十日町市市民交流センター(愛称：分じろう)1階の「まちの文化歴史コーナー」(愛称：HAKKAKE)において、博物館収蔵資料の展示を開始した。今年度は以下の日程で収蔵資料を展示した。

茂十郎の透綾-宮本茂十郎手織の透綾(絹縮)裂地-1(4/1～5/2)、国宝・火焰型土器No.5(5/3)、国宝・火焰型土器No.1 高精細レプリカ(5/4～5/6)、茂十郎の透綾-宮本茂十郎手織の透綾(絹縮)裂地-2(5/8～5/28)、威信の石槍・向田遺跡出土品(5/30～8/6)、ツクとツク折り(8/8～10/1)、その硯は誰のものか(10/3～12/3)、フクベ・夕顔瓢-十日町の積雪期用具-(12/5～2/4)、ワダラ(2/6～4/1)

## ⑤その他

中学生の職場体験として、十日町中学校2年生2名(7/10・11)、津南中等教育学校2年生4名(7/10・11)、中条中学校1年生1名(8/1)・2年生2名(8/1～3)の計9名を受け入れた。体験内容は、開館業務、館内点検、資料整理、新博物館建設現場見学、分じろうHAKKAKE展示見学および展示計画書作成、発掘調査、調査日報作成などである。また、当館では毎年、大学4年生の博物館実習を受け入れているが、今年度は申し込みがなかった。(阿部 敬)

## 2. 新博物館建設事業

### ①建設工事

平成29年度と30年度の2ヵ年継続工事であり、その2期目工事となる。建物については平成31年3月26日に一部履行検査を行い、引渡しとなった。なお外構工事においては、降雪時期に施工すると仕上り品質・精度の低下が懸念されたため、施工条件のよい時期まで工期を延長し31年度に繰越した。

#### 新博物館建物概要

構造：鉄筋コンクリート造／一部鉄骨造／2階建て

敷地面積：5,016㎡ 建築面積：2,197㎡

延床面積：3,107㎡

【面積比率】展示室：976㎡ (31.4%)、収蔵・研究：976㎡ (31.4%)、交流：366㎡ (11.8%)、管理諸室：490㎡ (15.8%)、機械室：299㎡ (9.6%)



1階平面図



建物外観 (正面)



建物外観 (上方から)

#### 受注施工業者及び契約額

工事区分	受注者	契約額(税込)
建築本体	村山・サンウッド特定共同企業体 代表者 株式会社 村山土建	1,092,212,640円
電気設備	村尾・信栄特定共同企業体 代表者 株式会社 村尾電気	216,432,000円
機械設備	拓越・美佐伝特定共同企業体 代表者 株式会社 拓越	432,641,520円
工事監理	石本・阿部設計共同体 代表者 株式会社 石本建築事務所	39,960,000円

契約工期：平成29年8月17日から平成31年（2019年）6月21日（外構工事繰越）

#### 工事の施工状況

##### 平成30年

- 4月～ 1階躯体鉄筋・型枠組立（1階については7回に分けてコンクリート打設）
- 5月～ 2階躯体鉄筋・型枠組立（2階については3回に分けてコンクリート打設）
- 7月12日 躯体のコンクリート打設完了（枯らし期間開始）
- 8月～ 型枠解体後空調ダクトや各設備配管の取付け、電気配線
- 9月～ 内部発泡断熱ウレタン吹付、外壁吹付塗装、2重屋根・2重壁の鉄骨取付け
- 10月～ 内部壁間仕切り、建具取付け、庇パンチングメタル取付け、屋根防水
- 11月～ 企画展示室展示ケース取付け、ガラス取付け、キュービクル・空調機搬入
- 11月22日 外部足場解体完了

12月～ 内部天井張り、設備配線・器具等取付け、収蔵庫床下地

12月11日 高圧電気受電

平成31年

1月～ 内部塗装、庇軒天杉板張り、エントランスホール天井造作、展示室床下地

2月～ 内部床張り、AV機器等設置、内部クリーニング、各種試験・調整

3月 各種検査

3月26日 市検査員による一部履行検査・建物引渡し

4月～ 外構工事（繰越）

(若月 辰則)



型枠組立



空調ダクト・機器吊込み



内部間仕切り

完成写真



エントランスホール



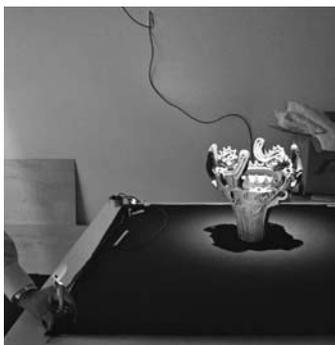
常設展示室



収蔵庫

## ②展示業務委託

今年度は主に、十日町空中散歩（ホワイト地形模型へのプロジェクションマッピング）、地域の文化遺産検索モニター、信濃川インデックステーブルなど各展示室で使用する映像資料の取材撮影を行った。取材の日時と内容は以下のとおりである。また、撮影にあたって、一部ドローンを使用した。平成30年2月8日：流雪溝、中継ポンプ場、消雪パイプ、6月4・5日：笹山遺跡、桔梗原頭首工、清津川揚水機場、送水管、星峠



展示ケースの照明実験

棚田、美人林、仙田地区瀬替田、JR信濃川千手発電所・浅川原調整池（連絡水槽）、JR信濃川発電所宮中取水ダム・新宮中取水

口、7月25日：中山堤防、新真人沢水路橋、JR信濃川小千谷発電所、9月8日：赤倉神楽、平成31年1月14・15日：新水のドウラクジンとハネッケーシ、大白倉のバイトウ、節季市（チンコロ市）、むこ投げ、すみ塗り

この他、10月2日にはパナソニック汐留ミュージアム（実験室）において展示ケースの照明実験を行い、平成31年1月から展示グラフィックの原稿作成に入っている。

(菅沼 亘)



ドローンによる瀬替田の撮影

### 3. 縄文文化発信事業／縄文・里山文化による誘客促進事業

東京オリンピック・パラリンピックまで2年を切り、当館では縄文文化の発信をより加速して行なった。特に、今年度は東京国立博物館やフランス・パリでの海外展など世界に向けて情報発信する機会に恵まれた。

#### ①国宝・高精細レプリカ展示（きものまつり協賛）

期間：5月3日(木) 会場：段十ろう・分じろう

昨年度、地方創生推進交付金を活用して製作された「国宝・火焰型土器高精細レプリカ(指定番号1)」を、成人式会場の段十ろうで初めて一般公開した。高精細レプリカは大きさ、重さ、質感とも、実物とほぼ同等に製作され、「触れることのできる国宝」として多くの人に体感していただいた。新成人から子供まで多くの人に縄文文化を発信することができた。また、同日は市民交流センター・分じろう内の「まちの文化歴史コーナー」で、国宝・火焰型土器No.5の実物を展示している。



国宝・高精細レプリカに触れる子供たち

#### ②東京国立博物館・特別展「縄文—1万年の美の鼓動」

期間：7月3日(火)～9月2日(日) 会場：東京国立博物館（平成館）

特別展「縄文—1万年の美の鼓動」は、史上初、縄文国宝6件がすべて揃うことで大きな話題となり、期間中の入場者数は約35万人を超えた。当館からは国宝・火焰型土器No.6の他に、国指定品でない野首遺跡火焰型・王冠型土器12点も出品され、その露出展示が多くの人に絶賛されていた。また、皇太子殿下も本展をご覧になられたということである。

当館では、多くの市民に十日町市の宝を見ていただくため、東京国立博物館の協力により10組（20枚）に招待券を贈呈した。期間中には、NHK・Eテレでおなじみの「びじゅチューン！」が同館とコラボレーションした「なりきり日本美術館」も開催され、当市の国宝・火焰型土器をモデルにした「縄文土器先生」が、火焰型土器の高精細レプリカを説明して話題となっていた。

#### ③第2回縄文国宝首長連携懇談会

期間：8月10日(金) 会場：東京国立博物館（平成館・小講堂）

上記の特別展「縄文—1万年の美の鼓動」開催に合わせ、縄文国宝6件が一堂に集まることを記念して、国宝が出土した当市の他に、北海道函館市、青森県八戸市、山形県舟形町、長野県茅野市の各首長が東京国立博物館に集まり、同館長、副館長、考古室長、青柳前文化庁長官（コーディネーター）をお迎えして、懇談会を開催し意見交換を行った。国宝出土地の自治体が一堂に会する機会は初めてとなり、大きく縄文文化を発信することができた。



特別展「縄文」での野首遺跡火焰型土器群の展示



同展「なりきり日本美術館」



縄文国宝首長連携懇談会

#### ④ジャポニスム2018：響きあう魂（全体開会式）

期間：7月12日(木) 会場：ラ・ヴィレット（フランス・パリ）

ジャポニスム2018は、日仏友好160年を記念しフランスで70以上の公式企画が行われた政府主管のイベントである。この全体開会式には河野外務大臣も参加し、日本とフランスの著名な作品を紹介しながら式典が行われている。当市の国宝・火焰型土器もピカソと並んで紹介された。

#### ⑤ジャポニスム2018「深みへ ー日本の美意識を求めてー」展

期間：7月14日(土)～8月21日(火) 会場：ロスチャイルド館（フランス・パリ）

主催：国際交流基金

この展覧会は、ジャポニスム2018総合推進会議総括主査で俳優の故津川雅彦氏の発案で開催され、葛飾北斎と伊藤若冲、ピカソやゴーギャンなど、日本とフランスの伝統的な作品と現代の作品をあわせて展示することで、日本の美意識を紹介するというものである。当市からは、国宝・火焰型土器No.5と王冠型土器No.16の他に、野首遺跡などの火焰型土器片多数が出品され、会場の中央に展示されるなど注目を集めた。



ジャポニスム2018の全体開会式（パリ）



ジャポニスム2018「深みへ」展での国宝展示（パリ）

#### ⑥ジャポニスム2018「縄文 ー日本における美の誕生」展

期間：10月17日(水)～12月8日(土) 会場：パリ日本文化会館（フランス・パリ）

主催：文化庁、東京国立博物館、国際交流基金

7月に東京国立博物館で開催された「縄文」展の展示品から、日本の縄文文化の代表として国宝6件を含む出土品を選抜し、再構成した内容で「縄文ー日本における美の誕生」展が開催された。当市からは国宝・火焰型土器No.1が出品され、この展覧会を象徴するかのように入口正面に展示されていた。会場となったパリ日本文化会館では、20年前に文化庁主催の縄文展が開催されており、シラク元大統領が火焰型土器No.1（当時は重文）をご覧になっている。まさに20年ぶりの里帰りとなった。また、初日の17日にはフランスを訪問中の安倍首相が来場し、国宝・火焰型土器を見学されている。



ジャポニスム2018「縄文」展での国宝展示（パリ）

#### ⑦文化庁・高校生ニッポン文化大使

高校生が日本の文化を学び、新たな魅力を発信するプロジェクト「高校生ニッポン文化大使2018」において、全国12名の大使に当市在住の高校生2名が選ばれ、8月28日に東京国立博物館で任命されている。二人とも小学生の頃から当館を見学し、縄文時代に興味を持っており、多くの人に十日町市の縄文文化を知ってもらいたいため、応募したとのことであった。

### ⑧JR大宮駅デジタルサイネージ掲載

期間：10月1日(月)～10月31日(水) 会場：JR大宮駅・東西連絡通路

JR大宮駅は、東北、秋田、山形、北海道、上越、北陸の各新幹線が通るターミナル駅である。十日町商工会議所と協力して、同駅にデジタルサイネージを掲載する機会は3度目である。同駅の東西連絡通路にある、70インチのモニター42面に6分間隔で15秒の動画を掲載し、「国宝・火焰型土器のクニ 新潟県十日町市」をPRした。

### ⑨国宝・王冠型土器の高精細レプリカ製作

昨年度の国宝・火焰型土器(指定番号1)に続き、今年度も地方創生推進交付金を活用して国宝・王冠型土器(指定番号15)の高精細レプリカを製作した。(佐野 誠市)

## 4. 資料の収集・貸出

### ①資料の寄贈

博物館では、市民から資料の寄贈を受けている。館内および館外収蔵庫の収容量が限られているため、受け入れの可否については、同種の資料が既に一定の点数収蔵されていないか、展示および貸出(使用)に耐えうる保存状況か、おおよその製作・使用年代がわかっているかなどを判断基準としている。今年度は、以下のとおり18件の寄贈を受けた(受付番号15015～15032・平成31年2月28日現在)。

15015(マジョリカお召ほか)、15016(ちゃぶ台ほか)、15017(庚申講道具)、15018(黒絵羽織ほか)、15019(古文書)、15020(倉俣小学校歌楽譜)、15021(来翰箱ほか)、15022(川西郷土読本ほか)、15023(火焰型土器模造品)、15024(古書籍ほか)、15025(ヤバサミ)、15026(古文書)、15027(古文書)、15028(昔の写真)、15029(生糸)、15030(掛軸)、15031(携帯白黒テレビ)、15032(紡織具)

### ②実物資料の貸出

資料の貸出状況は以下のとおり、考古資料8件(レプリカ含む)である。特に、東京国立博物館での特別展「縄文」、ジャポニスム2018(パリ)に伴う「深みへ」展や「縄文」展と、国宝・笹山遺跡火焰型土器の出品が相次いだ。国宝・火焰型土器(指定番号1)のパリ海外展への出品は、文化庁「縄文展」(1998年・当時は重文)以来、2度目である。(菅沼 亘)

貸出先	資料名(点数)	目的(展覧会名・会期など)
新潟県埋蔵文化財センター	野首遺跡土器42点、土製品17点、石器・石製品32点 計92点	春季企画展「火焰型土器－縄文の息吹－」(4/13～6/24)
東京国立博物館	国宝・笹山遺跡火焰型土器(No.6)1点、野首遺跡火焰型・王冠型土器12点、三角形土偶3点 計16点	特別展「縄文－1万年の美の鼓動－」(7/3～9/2)
独立行政法人 国際交流基金	国宝・笹山遺跡火焰型(No.5)・王冠型土器(No.16)2点、野首遺跡ほか火焰型土器破片119点 計121点	ジャポニスム2018「深みへ－日本の美意識を求めて－」(7/14～8/21、会場：パリ・ロスチャイルド館)
	国宝・笹山遺跡火焰型土器(No.1) 1点	ジャポニスム2018「縄文」(10/17～12/8、会場：パリ日本文化会館)
津南町農と縄文の体験実習館 なじよもん	森上遺跡土器7点、笹山遺跡石器12点 計19点	秋季企画展「火焰土器の魅力」(9/1～11/4)
沖縄県立博物館・美術館	赤羽根・笹山・幅上遺跡土器10点、野首遺跡石器12点、狐窪遺跡垂飾1点 計23点	特別展「縄文と沖縄－火焰型土器のシンボリズムとヒスイの道－」(11/22～1/20)
山形県舟形町教育委員会	国宝・笹山遺跡火焰型土器(No.1)レプリカ 1点	縄文の女神まつり2018 (8/4～5)
香川県立坂出高等学校	国宝・笹山遺跡火焰型土器(No.1)レプリカ 1点	美術授業での土器制作

実物資料の貸出一覧

### ③写真資料の貸出

写真資料の貸出件数は計194件（3月3日現在）、主な貸出状況は以下のとおりである。国宝・笹山遺跡出土火焰型土器をはじめとする考古資料が9割以上を占めている。使用目的では教材・テストなど教育関連が最も多く、今年度はTV番組や雑誌での使用が増加した。（引間 佳子）

貸出先	出版物	貸出資料	備考
株式会社アフロ	平成30年度 第1回栃木県立高 オープン模試 社会	国宝・笹山遺跡火焰型土器	模試
株式会社アート・エフ	「2018百戦錬磨」熟用テキスト		問題集
株式会社Z会	中学受験コース5年生		小学校問題集
早稲田大学文学学術院	日本考古学概説		講義教材
朝日出版社	縄文折り紙		
縄文ZINE編集部	縄文力で生き残れ		
株式会社小学館	小学館ウィークリーブックニッポンの国宝100		
IVSテレビ制作株式会社	ネプリーグ		クイズ番組
NHK	特別展「縄文－1万年の美の鼓動」展		特別展
	歴史秘話 ヒストリア 縄文の美		TV番組
株式会社平凡社	新版 縄文美術館	野首遺跡出土石器	
株式会社敬文舎	リトルトキョーライフ質問道場～縄文時代～	土製耳飾り	TV番組
株式会社ウオシヨク	AreaB こがね牧農舎内「雪室熟成」	雪室に関する画像	パネル
テレコムスタッフ株式会社	英雄たちの選択 木曾義仲	木曾義仲（児玉輝彦 作）	TV番組

写真資料の貸出一覧（主要なもの）

## 5. その他の事業

### ①雪文化3館提携事業

3館相互の入館者数増加と3館提携事業を広く周知するため、雪文化三館スタンプラリー（割引券付）および雪文化三館パンフレットを観光施設に配布した。スタンプラリーについては、3館すべての押印が終了した来館者に記念品を贈呈している。平成30年度のスタンプラリー利用者は141人であった（2/28現在）。（大滝 孝子）

### ②資料保存対策事業

着物資料の点検・整理を行った。今年度は特に新博物館へ資料移転にともなう予備調査として、収蔵着物資料の台帳との照合作業を行った。

### ③国宝発信事業

主に博物館ウェブページ作成委託を行った。博物館専用のウェブページの更新は、展示・講演・イベントに関する情報を随時掲載し、また、恒常的な閲覧を促して博物館および文化財課事業への興味関心を呼び起こす目的で、「じっぱくブログ」（博物館事業の職員コラム）と笹山日記（笹山遺跡関連事業の職員コラム）を随時更新している。また、今年度はより多くの市民に情報を届けられるようにFacebookページを追加した（11月9日～）。「情報アーカイブズ＞指定文化財」ページに掲載している各文化財の画像、説明文、位置情報（地図）を新たに70件程度追加した。これまで、指定文化財に関する情報は管理状態が統一されていなかったため、共通のフォーマットにのせづらかったが、歴史文化基本構想の策定（文化財課）に伴って情報整理がなされたことから、円滑に整理することができた。指定文化財の情報は今後も追加する予定である。（阿部 敬）

### Ⅲ 調査・報告

#### 資料報告①

## 中新田A遺跡の獣面突起

菅沼 亘 (学芸員)

中新田A遺跡は、十日町市下条地内、信濃川右岸の河岸段丘縁辺部にある。平成11年(1999)に県営圃場整備事業に伴い、十日町市教育委員会によって発掘調査が行われている。約4,400㎡の範囲が調査され、縄文時代中・後期の竪穴住居1軒、柱穴、土坑、焼土跡などが発見された。土器は、前期後葉から後期中葉のものが出土しており、主体を占めるのは中期である(十日町市教育委員会2003)。

ここで紹介する獣面突起2点は同一個体で、竪穴住居の周辺から出土している。いずれも口縁部にクマの頭部を模したと思われる突起が付く。耳があり、目は三角形の沈線、鼻・口は沈線がめぐる渦巻状の隆帯で表現され、愛くるしい表情である。この2点は顔面を土器の内側に向け、対になって付けられていたと推定される。また、直接には接合しないが、同一個体の可能性がある土器片が存在する。これらは折り返し口縁をもち、クサビ形の陰刻や三叉文が施されており、中期初頭に帰属すると考えられる。

新潟県内の獣面突起は、阿賀野市村杉遺跡、栄町吉野屋遺跡、見附市山崎A遺跡、出雲崎町タテ遺跡、柏崎市剣野E遺跡、上越市和泉A遺跡、佐渡市長ヶ平遺跡などで出土しているが、これらはトリを模したと考えられる意匠である。また、縄文時代中期の中部・関東地方では、イノシシやヘビ、カエルなどをモチーフにした突起や文様をもつ土器が盛んに作られている。



中新田A遺跡の獣面突起 (撮影：小川忠博)

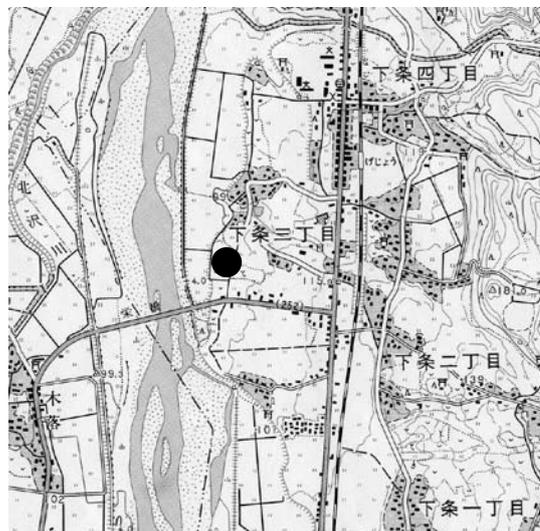
一方、東北北部や北海道南部では、中期以降にイノシシやクマの動物装飾付き土器が多く見られ、後・晩期になると北海道南部では、そのほとんどがクマになると言われている(福田2008)。中期初頭段階の中部・関東地方において、クマの意匠を持つ突起は珍しく、貴重な資料である。

#### 参考文献

大工原 豊 2008 「獣面把手」『総覧 縄文土器』(株)アム・プロモーション

十日町市教育委員会 2003 『平成10・11年度 県営ほ場整備事業上組工区内遺跡発掘調査概要報告書』

福田 友之 2008 「動物装飾付き土器と動物形土製品」『総覧 縄文土器』(株)アム・プロモーション



中新田A遺跡の位置 (●印)

## 宮本茂十郎手織の透綾（絹縮）裂地

阿部 敬（学芸員）

1829年（文政12）、西陣あるいは桐生の渡り職人であった「茂十郎ナルモノ」（新潟県勸業課1886）が、松屋庄兵衛の招きで十日町を訪れ、透綾（すぎあや・すぎや）＝絹縮（きぬちぢみ）とそれを織る高機（たかばた）の製法を伝授したといわれている。特に高機は複雑な織物の製造に欠かせない技術だったことから、この伝授は後に十日町が絹織物産地として飛躍するきっかけとなる歴史的な出来事であった。

その茂十郎が自ら織ったと伝えられている裂地（きれじ）が3点のみ存在し、「金登屋」（かねとや）の「雛形帳」（ひながたちょう）に貼られている。その脇にはこう書かれている。

明治廿年、樋口八十八殿ヨリ  
飯塚茂重郎殿ノ切本ヲ賜ル  
元祖飯塚茂重郎殿  
十日町ニテ織初メノ見本  
ニテ、切ハ八十八方ヨリ賜ル  
飯塚茂重郎君前同断

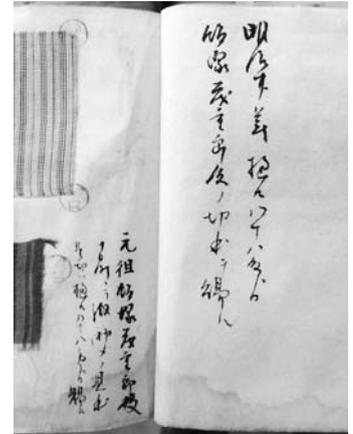
文中の樋口八十八（やそはち）は「呉服屋」（屋号）の当主で、縮問屋「丸屋」の分家である。松屋もまた丸屋と同系列の家と考えられており（佐野1991）、丸屋の一族が茂十郎の招聘から透綾の生産販売まで広く関わっていたことを示している。なお、「飯塚」姓は、神明町の飯塚家に寄宿していた時のもの、また「宮本」姓は後代になって茂十郎の顕彰碑を1927年（大正12）に建てた時に付けたものである。もとは単に「茂十」とだけ呼ばれていたともいわれている（十日町市1997）。

茂十郎は透綾・高機の技術を伝えて十日町の発展の礎を築いたが、わずか数年でまた他所へ去ったといわれ、その経歴などはいままでもって謎に包まれている。しかし彼がいたという証拠は3点の裂地として今も確かに残っているのである（以上、HAKKAKE展示「茂十郎の透綾-宮本茂十郎手織の透綾（絹縮）裂地-1」の解説文より）。

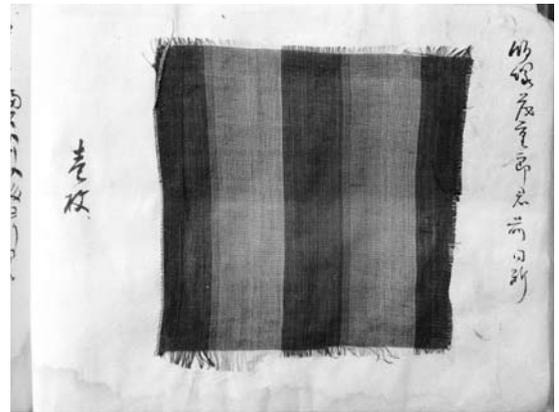
この資料は十日町織物工業協同組合が所蔵し、当館に寄託された。2001年（平成13）に十日町市指定文化財に指定されている。

## 参考文献

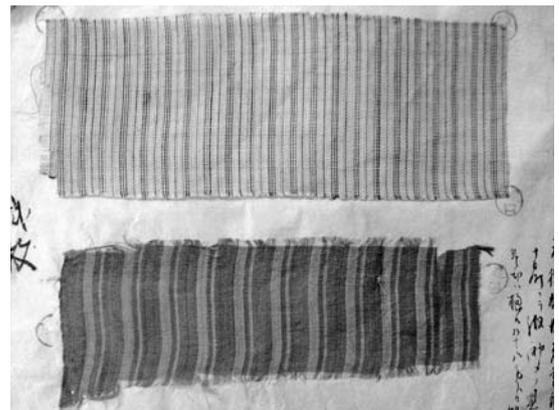
佐野良吉 1991 「宮本茂十郎を招いた松屋庄兵衛をめぐる」『市史リポートとおかまち』第5集  
十日町市 1997 『十日町市史』通史編6・織物  
新潟県勸業課 1886 『新潟県勸業報告』



飯塚茂十郎の透綾①



飯塚茂十郎の透綾②



飯塚茂十郎の透綾③

## IV 博物館友の会

博物館友の会は昭和54年に発足し、会員は平成31年2月現在で625名である。植物・古文書・いしぶみ・歴史・方言・考古・近代史（世界遺産を学ぶ会）・きもの・民俗の9つの研究グループが、研究活動を行っている。今年度の主な活動は以下のとおりである。

4月7日(土) 平成30年度総会・バックヤードツアー 会場：特別展示室ほか 参加者：24名

5月12日(土) 火焰131号発行

6月15日(金) 第86回文化財めぐり

“上州花の寺吉祥寺と真田氏ゆかりの沼田城址を訪ねて

～癒しの里 川場村の史跡と大人気の道の駅でお買物と入浴～”

参加費7,000円 参加者24名

7月7日(土) 庚申供養祭 会場：博物館ロビー（雨天のため） 参列者：約20名

9月8日(土) 火焰132号発行

10月24日(水) 第87回文化財めぐり

“開府400年長岡の歴史を訪ねて

～牧野家資料館・山本五十六記念館・河井継之助記念館・高龍神社等～”

参加費6,000円 参加者27名

2月9日(土) 火焰133号発行

2月16日(土)・17日(日) 第70回十日町雪まつり はくぶつかん広場開設

(伊乎乃庵でのおもてなし、売店、縄文クッキー・甘酒のサービス、雪像、西小学校児童によるチンコロ・和装小物販売など)

ひろば来場者：約1,400名

3月9日(土) 研究グループ発表会（会場：特別展示室） 参加者：38名

民 俗（高橋 由美子）滝沢秀一著『越後妻有の民俗』にみられる建築儀礼

植 物（高橋 勝芳）鏡が池周辺の植物

いしぶみ（小堺 哲也）いしぶみグループ活動報告

古 文 書（関谷 久之）史料から見る瀬替田

近 代 史（太田 玄）日本の世界遺産一覧表

方 言（登坂 勉）おぼの冬の夜語りと子どもの正月の遊び

歴 史（星名 寔）中魚沼の地勢と神社佛閣を歩く

き も の（木村 喜郎）繭から生糸へ

考 古（菅沼 亘）機織りのムラ 馬場上遺跡

(石原 正敏)



平成30年度総会（バックヤードツアー）



第86回文化財めぐり



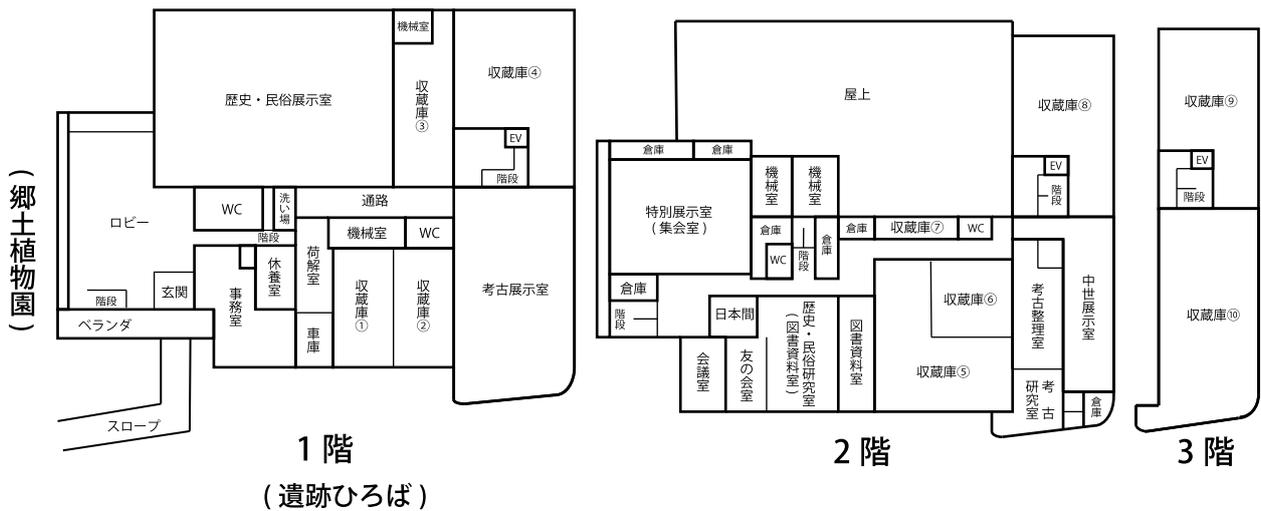
庚申供養祭

附編 これまでに開催された子ども博物館

年度	日時・体験内容・講師・場所（敬称略、所属は当時）
昭和57	① 8/8 「夏休み子ども博物館－神宮寺見学、子どもの遊び、植物採集－」 竹内俊道（館学芸員）・友の会民俗グループ・植物グループ
昭和58	① 8/6 「わらを使って、なう、あむ、むすぶ。－神宮寺境内でわらぞうり作り－」 大井田老人クラブ常務会 ② 9/11 「縄文人のくらしをさぐる－赤羽根遺跡発掘調査－」 阿部恭平（館学芸員）
昭和59	① 7/15 親子博物館「縄文時代のくらしを知ろう－笹山遺跡発掘調査－」 阿部恭平（館学芸員）／笹山遺跡 ② 3/31 親子博物館「たこ・竹とんぼ・竹なんごをつくらう！－竹細工教室－」
昭和60	① 7/30・8/10 「昆虫採集と標本づくり」 樋熊清治（日本鱗翅学会評議員・越佐昆虫同好会副会長） ② 8/12 「植物採集と標本づくり」 柳一成・羽賀道夫（理科センター）
昭和61	① 5/25 「自然教室『植物』」 羽賀道夫・友の会植物グループ／中条池谷・入山地区 ② 6/15 「自然教室『野鳥』」 山口邦夫（友の会野鳥グループ）／菅沼・大池地区 ③ 7/6・26 「自然教室『昆虫』」 樋熊清治
昭和62	① 5/10 「自然教室『植物』」 樋熊清治／六箇・塩之又地区 ② 6/14 「自然教室『野鳥』」 友の会野鳥グループ／大池地区 ③ 7/30・8/11 「自然教室『昆虫』」 樋熊清治
昭和63	① 7/10・25 「自然教室『昆虫』」 樋熊清治 ② 12/11 「シメナワを作ってお正月をむかえよう！」 南鑑坂寿会
平成元	① 7/31・8/11 「体験教室－昆虫観察と標本作り－」 樋熊清治（日本昆虫学会評議員・越佐昆虫同好会会長） ② 8/3 「体験教室－下条中段遺跡見学会－」 石原正敏（館学芸員） ③ 12/3 「体験教室－シメナワ作り－」 南鑑坂寿会
平成2	7/30・8/10 「昆虫」 樋熊清治
平成3	① 7/30・8/11 「昆虫観察と標本作り」 樋熊清治 ② 1/19 「ゾウリを作って、はいてみよう」 友の会
平成4	① 7・8月 「昆虫観察と標本作り」 樋熊清治 ② 9/19・26 「十日町の父『中山龍次』を学ぶ」 平野幸作（前東小学校教頭）／中山堤防 ③ 12月 「シメナワをつくらう」 南鑑坂寿会・池田良夫（友の会員）
平成5	① 7/17 「むかしのお城と館めぐり」 丸山克巳（市史編さん室長補佐）／大井田城跡他 ② 12/12 「もうすぐお正月－シメナワをつくらう－」 南鑑坂寿会・池田良夫（友の会員）
平成6	① 7/16 「地域の遺跡探検－大昔の暮らしにふれてみよう！－」 石原正敏（館学芸員）／大沢遺跡・珠川A遺跡 ② 8/2・11 「コンチュウのすきな子大集合！－昆虫標本を作ってみよう－」 樋熊清治 ③ 12/11 「もうすぐお正月－シメナワをつくらう－」 南鑑坂寿会・池田良夫（友の会員）
平成7	① 7/31・8/9 「昆虫教室」 樋熊清治（日本昆虫学会評議員） ② 12/9 「もうすぐお正月－シメナワをつくらう－」 南鑑坂寿会・池田良夫（友の会員）
平成8	① 6/30 「土をほって大昔のくらしを知ろう！－遺跡発掘体験－」 石原正敏（館学芸員）／野首遺跡 ② 8/3・4 「縄文人のくらしとところに触れる体験、してみませんか？－縄文生活体験－」 福島県船引町自然体験学習村「縄文の里」 ③ 10/12 「火焔土器を描こう！－写生大会－」 佐藤実千代（友の会員）
平成9	① 8/4・11 「コンチュウのすきな子大集合！－昆虫標本を作ってみよう－」 樋熊清治（越佐昆虫同好会会長） ② 8/10 「はくぶつかん不思議？発見－ウォークラリーと勾玉づくり－」 阿部恭平・菅沼亘（館学芸員） ③ 12/13 「もうすぐお正月－シメナワをつくらう－」 南鑑坂寿会
平成10	① 8/3・10 「コンチュウのすきな子大集合！－昆虫標本を作ってみよう－」 樋熊清治 ② 12/12 「もうすぐお正月－シメナワとハッチンチョウをつくらう－」 南鑑坂寿会
平成11	① 8/2・9 「コンチュウのすきな子大集合！－昆虫標本を作ってみよう－」 樋熊清治 ② 12/11 「シメ縄とハッチンチョウづくり」 南鑑坂寿会・大島伊一（友の会会長）
平成12	① 7/31 「川の中をのぞいてみよう！」 信濃川（魚沼橋付近） ② 3/10・24 「雪原で遊ぼう！－凧づくりと凧揚げそして春を感じる自然観察－」
平成13	① 7/30 「川の中をのぞいてみよう！－信濃川で水遊び！－」 井上信夫・加藤敏康他（雪国自然学校）／信濃川（魚沼橋付近） ② 8/5 「ウォークラリー－はくぶつかん不思議？発見－」 ③ 2/9 「どんぐりクッキー&どんぐりコーヒーをつくらう！」
平成14	① 7/29 「川の中をのぞいてみよう！－信濃川で水遊び！－」 井上信夫・加藤敏康・石崎俊明（雪国自然学校）／信濃川（魚沼橋付近） ② 8/4 「勾玉づくり」 ③ 12/7 「シメナワとハッチンチョウをつくらう！」 山田信男・中沢久治・村山利春・大島伊一 ④ 2/8 「どんぐりクッキー&どんぐりコーヒーをつくらう！」
平成15	① 7/28 「川の中をのぞいてみよう！－信濃川で水遊び！－」 井上信夫・加藤敏康・石崎俊明（雪国自然学校）／信濃川（魚沼橋付近） ② 8/3 「石器を作ろう！」 ③ 12/6 「シメナワとハッチンチョウをつくらう！」 中沢久治・滝沢武夫・大島伊一 ④ 2/7 「どんぐりクッキー&どんぐりコーヒーをつくらう！」
平成16	① 8/2 「川の中をのぞいてみよう！－信濃川で水遊び！－」 井上信夫・加藤敏康・石崎俊明（雪国自然学校）／飛渡川付近 ② 2/19・20 「ぞうりを作ろう・団子の木を飾ろう・こたつで遊べるよ」
平成17	① 8/1 「川で遊んで川を学ぼう－信濃川に親しむ－」 井上信夫・加藤敏康・石崎俊明（雪国自然学校）／飛渡川付近 ② 12/10 「シメナワとハッチンチョウをつくらう！」 中沢久治・山田信男・大島伊一
平成18	① 7/31 「池の中をのぞいてみよう！重地大池で生き物観察」 井上信夫（雪国自然学校） ② 12/10 「シメナワとハッチンチョウをつくらう！」 中沢久治・山田信男・大島伊一
平成19	① 7/30 「池で遊んで池を学ぼう！」 井上信夫（雪国自然学校）／重地大池（中里地区） ② 2/9 「縄文食づくり」
平成20	① 8/10 「わたしたち縄文たんけん隊！」 ② 12/7 「シメナワとハッチンチョウをつくらう！」 ③ 2/14 「どんぐりクッキーとどんぐりコーヒーをつくらう！」
平成21	① 8/9 「土器・勾玉づくり」 菅沼 亘（館学芸員）、以下同じ ② 12/12 「アングイン編み」 越後アングイン伝承会
平成22	① 8/7 「石器・コハクの勾玉づくり」 ② 12/11 「縄文クッキーづくり」
平成23	① 8/7 「土製耳飾り・勾玉づくり」 ② 12/10 「縄文クッキーづくり」
平成24	① 8/4 「縄文体験 編み布・勾玉づくり」 ② 10/13 「縄文体験 土器づくり」 ③ 12/8 「縄文体験 縄文クッキーづくり」
平成25	① 8/3 「縄文体験 編み布・コハクの勾玉づくり」 ② 10/19 「縄文体験 土器づくり」 ③ 12/14 「縄文体験 縄文クッキーづくり」
平成26	① 8/2 「縄文体験 土器づくり」 ② 10/11 「縄文体験 縄文クッキーづくり」 ③ 12/13 「縄文体験 ミニチュア土器・勾玉づくり」
平成27	① 8/1 「縄文体験 土器づくり」 ② 10/10 「縄文体験 土偶・土版づくり」 ③ 12/12 「縄文スノードームづくり」
平成28	① 8/6 「縄文体験 勾玉づくり」 ② 10/8 「縄文体験 土器づくり」 ③ 12/10 「縄文土器キャンドルづくり」
平成29	① 8/5 「石器の発掘体験とキーホルダーづくり」 ② 10/7 「火焔型土器の土版と埴輪づくり」 ③ 12/9 「縄文体験 どんぐりクッキーづくり」
平成30	① 8/4 「国宝・火焔型土器タペストリーづくり」(株)桐屋 ② 10/13 「アングイン編み・勾玉づくり」 越後アングイン伝承会 ③ 12/8 「縄文土器片消しゴムづくり」

（作表：田村 薫）

# 施設概要



＜建物の床面積＞

1階	1,855 ㎡
2階	1,439 ㎡
3階	458 ㎡
その他	56 ㎡
合計	3,808 ㎡

＜屋内施設＞

歴史・民俗展示室	476 ㎡	収蔵庫①	79 ㎡	収蔵庫⑥	69 ㎡	事務室・休養室	123 ㎡
考古展示室	278 ㎡	収蔵庫②	79 ㎡	収蔵庫⑦	23 ㎡	歴史・民俗研究室・資料室	143 ㎡
中世展示室	115 ㎡	収蔵庫③	104 ㎡	収蔵庫⑧	164 ㎡	考古研究室・整理室	115 ㎡
特別展示室(集会室)	181 ㎡	収蔵庫④	191 ㎡	収蔵庫⑨	164 ㎡	会議室・日本間・友の会室	94 ㎡
展示室 計	1,050 ㎡	収蔵庫⑤	160 ㎡	収蔵庫⑩	247 ㎡	その他	1,003 ㎡
		収蔵庫 計	1,280 ㎡			共用部 計	1,478 ㎡

＜屋外施設＞

郷土植物園	3,010 ㎡	遺跡ひろば	3,008 ㎡
-------	---------	-------	---------



博物館の外観



遺跡ひろば(昭和63年開園)



郷土植物園(昭和61年開園)

## ＜平成30年度 博物館職員＞

館長	佐野 誠 市	嘱託職員	佐野 芳 隆
副館長	石原 正 敏 (学芸員)	”	田村 薫 (調査研究員)
副参事	菅 沼 亘 (学芸員)	臨時職員	引間 佳 子
主 査	村 山 歩	”	春川 奈嘉子
”	笠井 洋 祐 (学芸員)	”	宮澤 早 記
”	大滝 孝 子	”	生越 友 子
”	阿部 敬 (学芸員)		
主任	黒田 朋 美		
”	若月 辰 則 (技 師)		
主 事	田村 典 子		

## 十日町市博物館 年報 第5号

編集・発行：十日町市博物館

〒948-0072 新潟県十日町市西本町1-382-1 TEL:025-757-5531 / FAX:025-757-6998  
 URL: <http://www.tokamachi-museum.jp> / e-mail: [museum.10@city.tokamachi.lg.jp](mailto:museum.10@city.tokamachi.lg.jp)  
 発行日：平成31年(2019)3月29日 印刷：株式会社 滝沢印刷